

ボーターツurisム 小笠原

2016年10月26日~31日

ツアーフォトアルバム





ボーダー・ツーリズム 小笠原 2016.10.26~31 おがさわら丸ブリッジにて



10月26日午前11時
おがさわら丸は東京
竹芝栈橋を出港。小
笠原の父島までは24
時間の航海。好天に
恵まれ、快適な船旅
となった。ボーダー
ツーリズム小笠原参
加者一同は、今年7
月に就航した「おが
さわら丸」の船橋を
見学した。

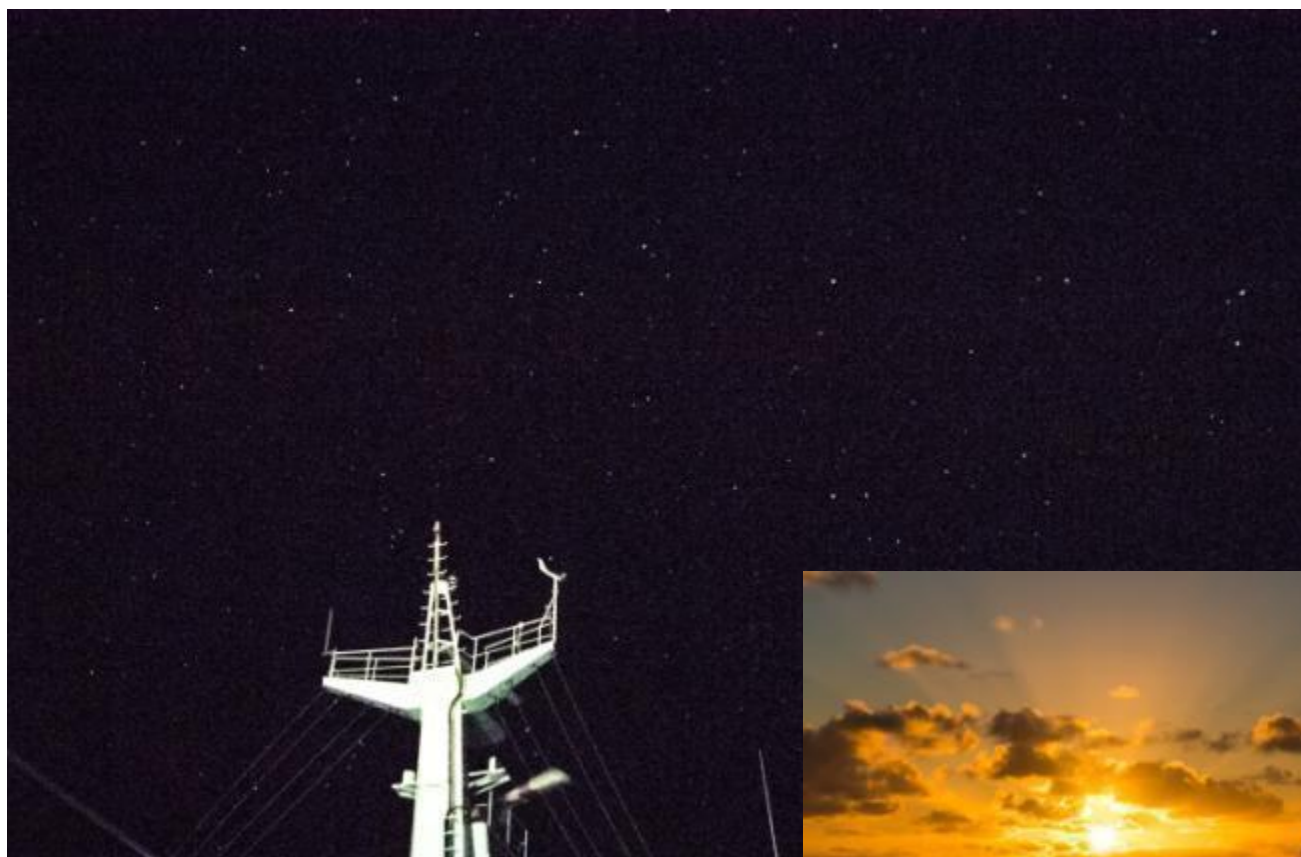
おがさわら丸の船上から 360 度の水平線と天空を満喫する



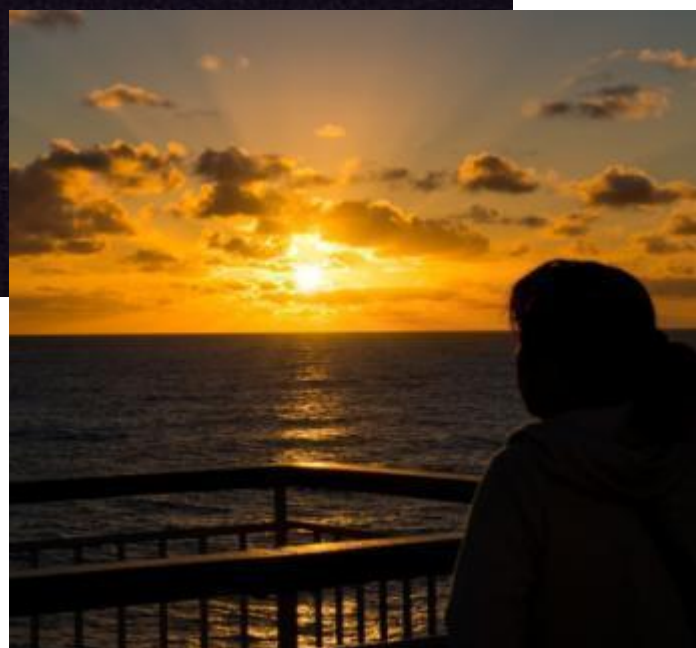
日没後の夕映えの空には宵の明星が輝いていた



10月26日午後4時45分美しい落日に出会った



26日深夜のおがさわら丸の上空には無数の星たちが煌き、漆黒の海には船のエンジン音だけが響いていた。



27日午前5時50分神々しいご来光を仰ぐ

カツオドリ

おがさわら丸、ははじま丸に寄り添うように飛ぶカツオドリ。波を分けて進む船に驚いて飛び跳ねるトビウオを狙って、豪快なダイビングを見せてくれる。



船に寄り添うように飛ぶカツオドリ



トビウオを見つけて急降下するカツオドリ



船に驚き海面を跳ぶトビウオ



トビウオを見事にキャッチ



トビウオを丸飲みして力強く海面を飛び立つ



ポーターツアーズ 小笠原

2016.10.26~31 父島長崎展望台にて



ブッシュ元米国大統領が落下傘降下した海



大根山墓地公園に残る旧日本軍のトーチカと父島二見港

10月27日午前11時、父島二見港に到着。気温29度、じっとしていても汗が噴き出すなか、宮之浜や長崎展望台などの景勝地をめぐる。夕方から村役場で交流会、夜は懇親会で盛り上がった。



ポーターツーリズム 小笠原

2016.10.26~31 父島二見港にて



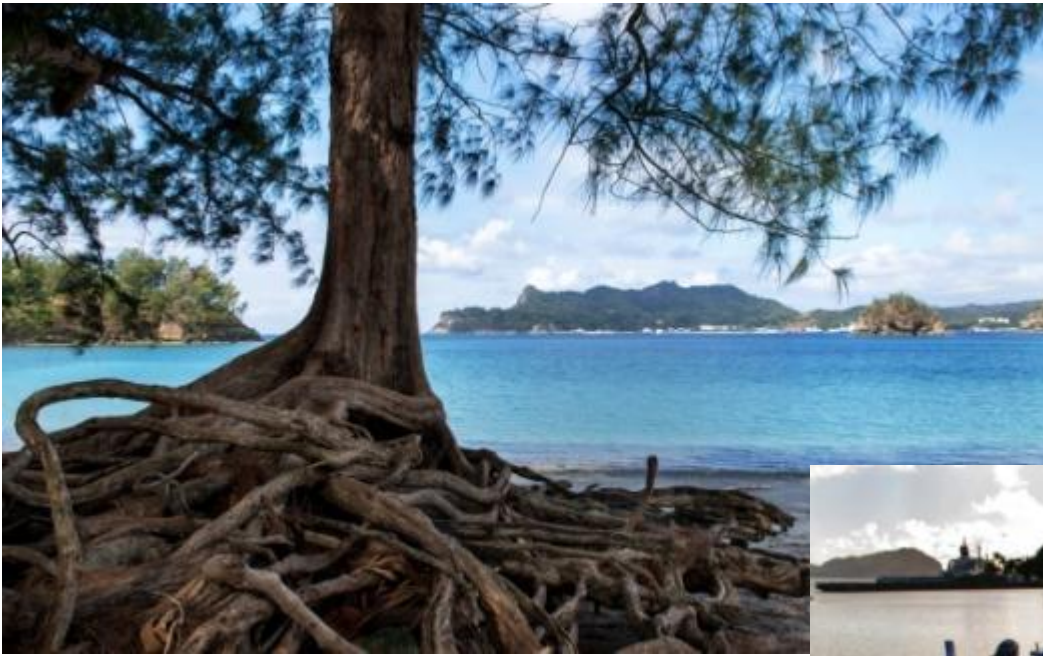
28日、大平レースさんによる欧米系島民のルーツや占領史跡について、熱の入った説明には説得力があって感動ものだった。



とにかく美味しい「島ずし」



アオウミガメの刺身は柔らかく淡泊な逸品



美しい景観の扇浦海岸
(左の写真) カヌー(地元ではカノー)は島の漁師に伝わる独特の舟。実際的一本底釣り漁などに使っているカヌーは数少ない。(下の写真)



旧日本軍が建設した飛行場跡地を見学する。
(左の写真)

父島の鎮守である大神山神社の石段を上ること219段さらに坂道を登ると二見港を見下ろす展望台に到着。美しい夕景が迎えてくれた。



世界自然遺産「小笠原」を守る



小笠原では、貴重な自然を守るために、種々の取り組みが行われている。左の写真2枚は外来生物対策としてグリーンアノール（北米大陸原産の小型の樹上性トカゲ）を捕獲する粘着シートを取り付けたタコノキ。下の写真は食用として持ち込まれ野生化したヤギから植物を守るための防護柵。＝父島にて撮影＝



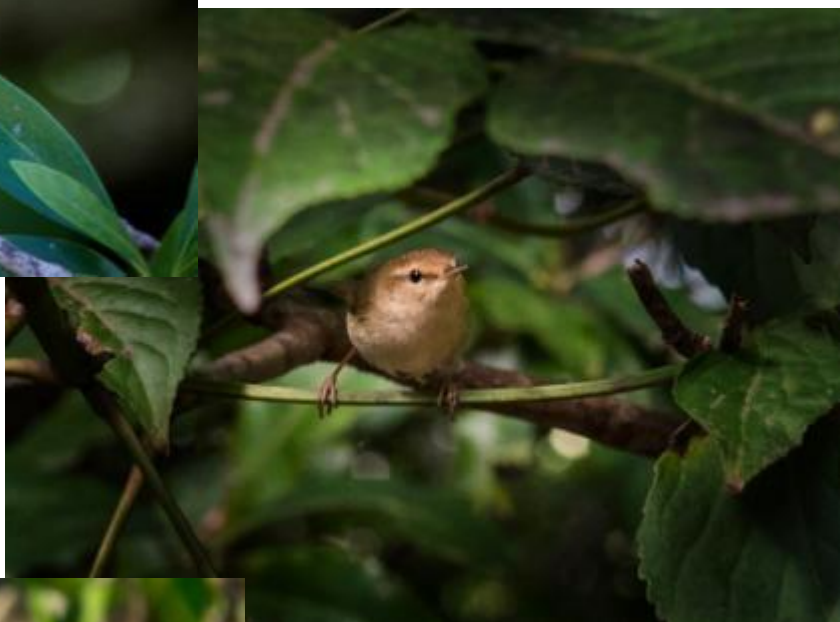
産卵のために海岸へ移動するオカヤドカリを守るための注意喚起を促す道路標識（上の写真）と小笠原固有の蝶オガサワラシジミの幼虫が餌とするコブガシとオオバシマムラサキの花芽をグリーンアノールから守るための防護柵（右の写真）＝母島にて撮影＝



小笠原で出会った貴重な動植物たち



ハハジマメグロ
(10月30日早朝母島にて撮影)



オガサワラハシボソウグイス
(10月28日父島にて撮影)



イソヒヨドリ
(10月30日母島にて撮影)



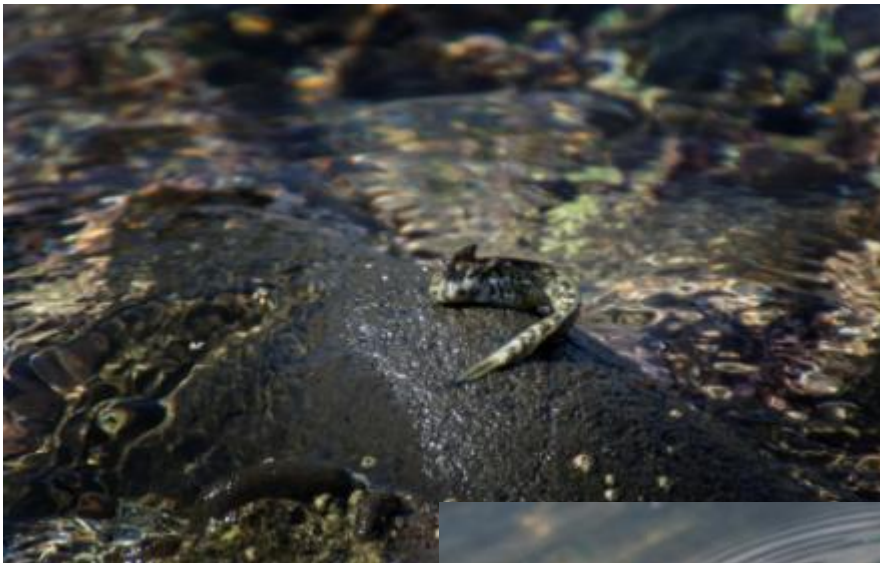
ムナグロとツノメガニ (10月30日母島にて撮影)



オオハマボウ
(10月28日父島にて撮影)



ムニンシュスラン
(10月29日母島にて撮影)



ハゼ
(10月29日母島にて撮影)



アオウミガメ (10月30日母島にて撮影)



ボーダーツーリズム 小笠原 2016.10.26~31 母島南崎にて



母島の南崎、御幸之浜
展望台にて (上の写真)



明治の初めに母島に定住したドイツ人ロルフスによって発見されたロース石。様々なものに加工され、島の暮らしに役立った。ロース記念館を見学。(左上と左の写真)

島レモン、島バナナ、島カカオ



先祖代々母島で暮らす折田さんが経営する「島レモン」の畑



平塚製菓株式会社の小笠原カカオ園。亜熱帯の小笠原にあるビニールハウス内は熱帯以上



路地でたわわに実る「島バナナ」島のスーパーで購入して食した。美味しすぎる。





ボーダーツーリズム 小笠原 2016.10.26~31 母島北村小学校跡にて



老朽化した栈橋だけが残っている北港



風光明媚な北港で昼食。戦前には約 600 人が暮らしていた北村。今、静けさに涼風が心地よい。



台風時の避難港となる東港

母島に残っている戦争史跡



母島の北側にある庚申岳のふもとに旧日本軍の探照灯基地跡が残っている。草木に覆われたコンクリート製の壕の中は真っ暗。カメラを高感度にしてシャッターを切った。鉄錆た探照灯設備の残骸が時空を超えて浮き上がった。



静沢 101 高地防空砲台跡に残っている旧日本軍の安式砲（アームストロング砲）。母島沖港防衛のため 1941 年に 4 門が設置された。鉄錆た砲身がジャングルの中で構えて残る姿は異様だ。

漁船や釣り船で賑わう母島の沖港



大物狙いの釣り人には最高の港

落日が美しい沖港

島の皆さんの盛大な見送りが心に残る



母島では、島ダンスで明るく楽しく見送ってくれた。心温まる見送りは、胸に迫るものがあった。



父島の盛大な見送りには、大感激であった。何隻もの漁船やボートが連ねての見送りは圧巻。また、来たいという思いを抱かせてくれる。



